

Crown English Communication I, pp. 46–47.

Lesson 4**Seeing with the Eyes of the Heart**

After the first few chords, no one was aware that the pianist was blind. They were aware only of his music. “I want people to listen to me as just one pianist who ⁽¹⁾happens to be blind,” he said. The pianist is Tsujii Nobuyuki. His friends call him Nobu.

—1

When Nobu’s parents ⁽²⁾learned that their son was blind, they were very sad. However, they soon discovered that he had a special talent. When Nobu was two, he heard his mother sing “Jingle Bells.” A few minutes later, he surprised her by playing the tune on his toy piano.

As soon as Nobu began taking piano ⁽³⁾lessons at the age of four, he surprised his teachers with his memory. Nobu is able to read music by touch, but he likes to learn by ear. He listens to a tape recorded for him and remembers what he hears.

The piano is Nobu’s great ⁽⁴⁾love. He especially likes Debussy, Chopin, and Beethoven. He plays jazz, and once had a chance to meet the popular musician Stevie Wonder. He is also blind from birth.

Lesson 4—Lead

(1) happen 動自 3, p. 916.

3 [[happen to do]] (人・物・事が) 偶然 [たまたま, ちょうど] …する; [[it (just) so] happens (that) 節] たまたま…(ということ)である (1) 進行形にしない. (2) (just) so の代わりに just, often, sometimes などの副を用いることがある ↓ 第6例) ▶ I happened to be [It happened (that) I was] in the bath when the phone rang. 電話が鳴った時たまたま私は風呂に入っていた/Do you happen to know his phone number? ひょっとして彼の電話番号をご存じでしょうか (1) 知識の有無を偶然のせいにした控えめな質問; しばしば know, love, like, want などの動を伴って/If you (should) happen to come here again, give me a call. 当地にまた来ることがあったら電話ください (1) should は「ありそうもない」(含意)/The door happened to be open. 戸はたまたま開いていた/It just happened that way. 本当にたまたまそうなったのです/It often happens that you destroy a community in order to save it. 地域社会を救おうとして破壊してしまうことがよくある (1) You often destroy … や Often, you destroy … の方が普通).

- [[happen to do]]の文型表示を手掛かりに 3 を参照させる。「たまたま…する」ことを意味し、教科書本文では「(特別なことではなく)たまたま盲目であった, 単なるひとりのピアニスト」と述べていることを確認させる。
- また, 第2用例の Do you happen to do …? は会話の定型表現として紹介しておきたい。

Lesson 4—Section 1

(2) learn 動他 2, p. 1140.

2 (かたく) (人が) «…から» (情報・知らせなど)を知る «from»; [[learn (that) 節/wh 節] …ということ[…か]を知る, 聞く (find out)] ▶ I learned the news from Ann. 私はその知らせをアンから聞いた/He was shocked to learn that she had died. 彼は彼女が死んだと聞いてショックを受けた/You will soon learn why that happened. なぜそれが起こったかすぐわかります/It has been learned that … ということがあった。

- 生徒は「学ぶ, 学習する」の意味だけを覚えて満足してしまうことが多いが, 教科書本文では that 節が後続しているので, [[learn (that) 節]]の文型表示に注目させて, 2 の「…ということを知る」という訳語に導きたい。第2用例が that 節を使ったものになっているので注意させる。

(3) lesson 名 1a, p. 1150.

les·son 名 /lés(ə)n/ (1) lessen と同音 [語源は「読むこと」]

— 名 (④ ~s /-z/) ① 1a (一般的に) «…の» レッスン, 学課, 習い事; [[~s]] (一連の)授業, 稽古 «in, on» (1) 何らかの技術を習得することを目的とし, しばしば個人授業をさす. (2) in は学科など, on はその中の個別の項目について用いる) ▶ take private piano lessons from Al アルからピアノの個人指導を受ける/give lessons in manners マナーを授業で教える. b (主に英) (個々の)授業(時間) (1) (米)では class が普通) ▶ in lessons 授業では[, 授業中に[.]

- lesson という名詞を目的語に取る動詞として, 教科書本文や辞書の第1用例を参照させ, 「レッスンを受ける」という take とのコロケーションの重要性を認識させる。また, 「連続する一連の授業」をさす場合には複数形が使われることも, [[~s]]という用法指示や, 太字になっている第1用例からもわかるので, 注意を促すとよい。
- 「レッスンをする, 授業をする」という表現においては, 第2用例のように give を用いることも一緒に覚えさせておきたい。

(4) love 名 2a, p. 1197.

2 ① a [[通例 one's ~]] 大好きな人[もの]; 恋人 ▶ Baseball was always my first love. 野球がずっと一番好きだった/Alison married her first love. アリソンは初恋の人と結婚した/Ed was the love of my life. エドは私が一番愛した人でした. b かわいい[愛すべき]人[物] ▶ What a love of a baby! なんてかわいい赤ちゃんでしょう。

- [[通例 one's ~]]という用法指示から, 所有格代名詞と共に用いる love の名詞用法に注目させる。「愛情; 愛」という感情ではなく, ここでは「大好きな人[もの], 恋人」という具体的なものを表す名詞であることを確認させる。
- one's first love が第1用例では「1番目に大好きなもの», 第2用例では「初めて好きになった人」の意味で使われている。生徒が興味を持ちそうな例なので参照させるのもよい。

Crown English Communication I, p. 48.

—2

At the age of 20, Nobu decided to ⁽¹⁾enter the Van Cliburn International Piano Competition: one of the most famous competitions in the world. It is ⁽²⁾held every four years in Texas. This event was a turning point in his life. Nobu and his mother ⁽³⁾flew to Texas. They met their American host family, the Davidsons. They warmly welcomed Nobu and his mother and did their best to make them feel at ⁽⁴⁾home. They even prepared a Japanese rice cooker for Nobu and his mother.

Lesson 4—Section 2

(1) enter 動 ㊦ 6a, p. 657.

6a (試合・試験など)に参加する, …の参加登録[申し込み]をする ▶enter a competition 競技に出場する。
b «…に»〈人〉を参加(登録)させる «for, in» ▶enter him [his yacht] for the June race 彼[彼のヨット]を6月のレースに参加登録する/Many students are entered for the exam. 多くの生徒がその試験を受ける。

- 目的語が〈試合・試験など〉の場合, **6a**の「参加する, 参加登録[申し込み]をする」の意味になることを確認させる。後ろに従える目的語はどのようなものを取りやすいかという「選択制限」についての情報は, 山形かっこ〈 〉に示されていることに注意。enter = 「入る」という単純な図式にはならず, 目的語によって意味が変わることを理解させたい。

(2) hold インデックス, 動 ㊦ 3, p. 966.

hold ㊦ /hoʊld/ [「見張る」>「ある状態を保つ」]
 ((名) holder)

SVO ㊦ 1 持っている 3 (会を)開く 4a 収容する 5 所有する
 6a (信念を)抱く 7a (程度・速度を)維持する
 8a 取っておく
 SVO(+) SVO() ㊦ 2 保つ 9 留置する
 SV(+) ㊦ 1 持ちこたえる 2 続く
 SVC ㊦ 2 保つ
 【動作】㊦ 1 つかむこと

- holdには多くの意味があるので, まずはインデックスから全体像を把握させる。教科書本文では受け身になっていることから他動詞であり, またピアノのコンテストの話であることから, インデックスにある「3 (会を)開く」に導くとよい。
3 (会議・祭り・裁判・会談など)を開く, 催す, 行う (㊦しばしば受け身で) ▶The competition [meeting] will be held in June. 6月に競技会[会合]は開催されます/hold a press conference 記者会見を開く。
- 3**の訳語に続く㊦には, 受け身でよく用いるという情報が出ているので確認させる。教科書本文では it になっている the Van Cliburn International Competition と同様に, competition を使った用例が出ているので参照させるとよい。

(3) fly¹ 動 ㊦ 2a, p. 770.

2 [fly(+ ㊦)] a 〈人〉が飛行機で行く (㊦ ㊦ は方向・場所・移動の表現) ▶fly (direct [nonstop]) from London to Narita ロンドン・成田間を(直行便[ノンストップ]で)飛ぶ/fly about Asia アジア各地を飛行機で旅行する/Who did you fly with? どちらの航空会社の便でいらっしゃいましたか。b 〈人〉が飛行機を操縦する ▶The pilot flies across the Atlantic once a month. そのパイロットは月一度は大西洋を横断飛行します。

3 [fly(+ ㊦)] 〈電車・人などが飛ぶように行く[走る], 急ぐ (㊦ ㊦ は方向・場所・移動の表現) ▶She is always flying around the house getting things in order. 彼女はいつも家中を飛び回って物を片付けている/fly down the stairs to the door 入口まで階段を駆け下りる/I must [I've got to] fly. 《話》さあ, 急がなくちゃ。

- 主語にどんな名詞がくるかという「選択制限」を山形かっこ〈 〉で示していることに触れ, 主語が人になる場合の意味を調べさせる。該当する **2a**, **2b**, **3**のうち, 教科書本文では **2a**の「飛行機で行く」の意味となることを確認させる。
- [[fly(+ ㊦)]の文型表示と, (㊦ ㊦ は方向・場所・移動の表現)という注記に注目させて, 教科書本文の to を使った「…へ飛行機で行く」だけでなく, 辞書の第1用例の from を使った表現もチェックさせるとよい。

(4) home 名 成句 at home, p. 970.

at home* (1) 在宅して, 自宅に(いて); 実家に(いて) (↓㊦ 1) ▶He lived at home until he was twenty. 彼は20歳まで実家で暮らした。(2) (主に英)くつろいで, 気楽に ▶I feel [am] most at home [in my room [with you]]. 僕は自分の部屋[君と一緒に]にいる時が一番くつろげるんだ/Come in, and make yourself at home. 《話》さあ入って, どうぞ楽にしてください/Good music makes people feel right at home. 良い音楽は人の心を和ませてくれます。(3) «…に» 精通して, 手慣れて «with, in, on» ▶He is equally at home in German and French. 彼はドイツ語もフランス語も堪能(ぶ)だ。(4) 国内[本国]で(の) (↔abroad) ▶problems at home and abroad 国内外の問題。(5) 【スポーツ】本拠地(の) ▶consecutive wins at home ホームグラウンドでの連勝。

- at home の文字通りの意味である(1)の「在宅して, 自宅に(いて)」を確認させてから, (2)の「くつろいで, 気楽に」の意味と使い方を調べさせる。(2)の第1用例と第3用例は共に教科書本文と同じく feel が使われていることから, feel at home のコロケーションの重要性を認識させる。
- さらに, 第3用例は教科書本文同様に「O を…させる」という make + O + 原形不定詞の形になっていることにも注意させる。なお, 第1用例の most, 第3用例の right は共に強調を表す副詞であることに触れるのもよい。
- 会話表現頻出の make yourself at home が第2用例にあり, 参照させるのもよい。

Crown English Communication I, p. 49.

Nobu practiced many hours each day during the three weeks of the competition. When he was playing the piano, the beautiful music made Mrs. Davidson cry. “I cry a lot when I ⁽¹⁾hear him play,” she said. ⁽²⁾Even the neighbors loved Nobu’s music. They asked the Davidsons to keep the doors and windows of their house open; they wanted to hear Nobu practice every morning.

(1) hear 動 ㊦ 2, p. 939.

類義 ▶ hear と listen (to)

hear は「…が聞こえる」の意で、声・音・話・知らせなどが意思に関係なく自然に耳に入ってくることをいう。listen (to) は「…に耳を傾けて聞く」の意で、積極的に意識して聞く場合に用いる(↑㊦ 1 第3例)。ただし講義、演奏、人の言い分を聞くといったときは hear と listen (to) のどちらも用いられる; ↓㊦ 2.

2 (講義・演奏・言い分などを)聞く、…に耳を傾ける; [hear wh 節] …かを聞く; [hear A do] A (人)が…するのを聞く (listen to) ▶hear a speech [his complaint] 演説[彼の不平]を聞く/I don't want to hear what she has to say. 彼女の言い分を聞きたくない/hear him talk [sing]. 彼が話す[歌う]のを聞く。

- [[hear A do]]の文型表示から 2 の「A (人)が…するのを聞く」の意味を確認させる。教科書本文では「him (= Nobu)が play (演奏する)のを聞く」となることを理解させる。このページ最後のセンテンスにある、... they wanted to hear Nobu practice every morning. も同じ構造の文であることを指摘しておくといよい。
- hear と listen の基本的な違いがすぐ上の類義に出ているので復習させておくといよい。なお、2 の意味になる場合は listen to を用いることもできることが書かれているので、そこにも触れておきたい。

(2) even¹ 副 1, p. 674.

e·ven¹ /i:v(ə)n/ [原義は ㊦ 1]

- 【強調】 ㊦ 1 …(で)さえ、…でも、…すら、…だって (㊦ 1)
- 【均質】 ㊦ 1 平らな 2 一定の
- 【均等】 ㊦ 3 均等な 4 a 端数のない 4 b 偶数の

— 副 (比較なし) 1 …(で)さえ、…でも、…すら、…だって (㊦ 1) 通例 even ではなく強調しようとする語句に強勢を置く; ↓ 語法 ▶ (2) 予期しない意外な内容であることを暗示) ▶Even a child can do it. 子供でもそれくらいできる (㊦ 1) even を含む語句は文末に添えられることがある: Everybody can do it—even [×also] a child. 誰だってそれくらいできる、子供だっただ。なお、also では意外性を表せない/You don't even know. 君にわかってたまるか/I didn't even think of going to Europe. 私はヨーロッパに行くことなど考えもしなかった/Don't even think about it! そんなことを考えるな (㊦ 1) 文脈から明らかな場合 Don't even. (やめろ)のように省略されることがある)/The owl can see its prey even in the dark. フクロウは暗闇でも獲物が見える/She didn't stop once, not even for a rest. 彼女は一度も途中で動きを止めなかった、休憩のためさえ (㊦ 1) 否定文に添える場合は not も添える/I don't feel even a little bit of envy. うらやましいという気持ちなどこれっぽっちもない (㊦ 1) ㊦(バ)しばしば a little (bit), a few, a single, a couple, a hint, slight(est), small(est) など少ない数量を表す語句と共に/I will have to wait until 2019(,) or even 2020. 2019年まで、あるいは2020年までも待たねばならないだろう/He blames me even when he is to blame. 彼は自分に責任があるときさえ私を責める。

語法 ▶ even の位置

(1)《書》では通例強調しようとする語句の前に置かれる ▶Even her father says that she is wrong. (可愛がっている)彼女の父親までも彼女が間違っているとやっている/Her father even says that she is wrong. 彼女の父親は彼女が間違っていると(考えているだけでなく)口に出してまで言っている (㊦ 1) 動を修飾する場合、一般動詞ではその前、㊦ や be 動詞ではその後で置かれる。

(2)《話》では強調しようとする語句に強勢が置かれるためその前以外の位置も可能。特に Mark even gave his daughter a new bike. のような文中の位置では、Mark, gave, his, daughter, new, bike のどれかに強勢を置くことで強調関係にあることを示すことが可能。ただし、文頭の even は通例直後の語句を修飾し、強勢によっては他の語句を修飾することは不可能で、Even Mark gave his daughter a new bike. の文で強調できるのは Mark のみとなる。

(3)《くだけて》では文末に置かれることがある ▶Many of my students are in their 20s, one or two in their 30s even. 私の学生の多くは20代だが、1人か2人は30代の人もある。

(4)《比較的まれ》だが強調しようとする語句の直後に挿入されることがあり、その際《話》では前後に小休止、《書》ではコンマで挟まれる ▶She gave the ring, even, to Susan. 彼女はスーザンにその指輪さえやってしまった。

- 教科書本文では冠詞+名詞からなる名詞句の the neighbors に even が先行していることをチェックさせる。neighbors の直前に置いて名詞を修飾する限定用法ではなく、ここでは副詞であることを確かめさせる。
- 辞書の第1用例が教科書本文と同じく冠詞+名詞に先行し、主語となっていることから語義 1 を参照させる。用例の訳文からここでは「(ホストファミリーだけではなく)近所の人でさえノブの音楽を愛していた」という意味になることを確認させる。
- 語義 1 に続く 語法 コラム(1)で even の位置について調べさせる。辞書の第2用例は動詞を修飾する例になっているので参照させた後、教科書前ページの最後の行が一般動詞を修飾する用法になっているので確認させるとよい。

Crown English Communication I, p. 50.

—3

The day ⁽¹⁾for giving the prizes arrived. Nobu was ⁽²⁾among the six finalists. First prize was 20,000 dollars and the chance to go on concert tours all over the world, a dream for any young musician. Everybody waited anxiously as the announcements were made.

First, they ⁽³⁾named the second-prize winner: a pianist from South Korea who had become one of

Lesson 4—Section 3

(1) for 例 6, p. 780.

【目的】6 目的・用途 …のために[で]; [～ doing] …するために[の] (1) for doing は 図 や something などの不定代名詞, be 動詞, 特定の 動詞 の後で「用途」を表す際に用いる; → some 例 1 (文法) ▶ Is the house still for sale [rent]? あの家はまだ売り[賃貸]に出ていますか (1) on sale との違いに注意 → 成句 on SALE/use the Internet for research 調査目的にインターネットを使う/Codes are for hiding information. 暗号は情報を隠すためのものだ/go for a walk [swim] 散歩[泳ぎ]に行く/medicine for colds 風邪薬/Do you have anything for (soothing) a sore throat? (薬局で)喉の痛みを和らげるものは何かありますか/a brush for washing shoes 靴を洗うブラシ/These computers are available for use by the students. これらのコンピュータは学生による利用が可能だ/for the purpose of (doing) experiments 実験(をする)目的で/What did you do that for? 《話》何でそんなことをしたんだ (≡ Why did you do that?) (→ 成句 WHAT (...)) for?.

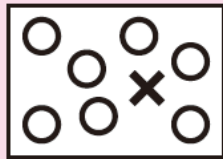
【語法のポイント】私はフランス語を学ぶためパリに行った。
× I went to Paris for studying French.
○ I went to Paris ((かたく) in order) to study French.
1 一般に特定の行為の目的を表す場合は to do を用いる (→ to 例 19 a). なお, use のように to do と for doing のいずれも従える 動詞 もある ▶ This fiber is used to make [for making] rope. この繊維は綱を作るのに使われる (≡ We use this fiber to make rope).

- 基本的な前置詞は様々な意味を持つので, サインポストの【目的】や, その後にあるより細かい概念を示した【目的・用途】という注記, そして略式文型表示の【～ doing】から, 「…するための」という 6 に導く。
1 の注記から, 名詞の後で「用途」を表す際に用いることを確認させる。
- 「図+for+doing」の形を把握させるため, 第6用例の anything for (soothing) a sore throat や第7用例の a brush for washing shoes をチェックさせ, 教科書本文の a day for giving the prize が「賞を与える日」=「授賞式の日」になることを理解させる。

(2) among 概念図, 例 3, p. 72.

a·mong¹ /əmˈɒŋ/

語源は「群れの中に」で, 「(3人[3つ]以上)の間で」や「(多数)の間にまじって」の意で場所・位置を表す用法が基本 (↓ 1). そこから, 範囲 (↓ 2), 同類 (↓ 3), 分配 (↓ 4)などを表す用法が派生した。



3 同類 a (同種の物・人)のうちの1つ[1人]で; …の中に含まれる ▶ Osaka is among the largest cities in Japan. 大阪は日本最大都市の1つである (≡ Osaka is one of the largest cities in Japan.)/Among his major works are Hamlet and King Lear. 彼の主要作品には『ハムレット』や『リア王』もある (1 倒置構文; → do¹ 例 5 (文法)/He was an actor among actors. 彼は役者の中の役者であった (≡ He was an actor's actor).

- 多様な意味・機能を持つ重要な前置詞については, その概念が図として示されている場合もあるのでチェックさせるとよい。まず概念図から among の持つ基本的なイメージを把握させる。教科書本文が the six finalists (すでに決定した6名のファイナリスト)という同じ立場の集まりについて述べていることから, 【同類】という概念を示した語義 3 に導く。
- 辞書の第1用例が教科書本文と同じく「主語+be動詞+among…」となっている 3a を参照させる。用例の訳文から, ここでは「6名のファイナリストの1人だった[に含まれていた]」という意味になることを確認させる。

(3) name 例 2, p. 1323.

2 …の名前を言う[挙げる]; [～ A as B] A(人)をB(名前・容疑者など)だと確認する ▶ Can you name the Japanese Prime Minister? 日本の首相の名前を言えるかい/The winner has not yet been named. まだ勝者の名前はわかっていない。

- name の動詞用法を確認させたい。『ウィズダム英和辞典』では, 複数の品詞を持つ語の場合, よく使われる方の品詞が先に掲載されている。name は生徒たちのよく知っている名詞用法が先に出ており, 名詞の方がよく使われるが, その後動詞用法も挙がっていることに注意させる。
- 教科書本文では winner が目的語になっていることをチェックさせる。コンクールという状況を考えて, ここでの name は「winner の名前を言う[挙げる]」という意味が文脈に合っているため, 語義 2 を参照させる。辞書の第2用例では winner を主語にした受け身文が用例になっているので確認させるとよい。

Crown English Communication I, p. 51.

Nobu's closest friends. And then the first-prize winner was announced: a 19-year-old pianist from China. Nobu thought that he had lost. Still he was happy to be one of the finalists. He had been able to play two concertos with an orchestra. He was not the winner, but he was ⁽¹⁾still happy.

Then something ⁽²⁾amazing happened. Nobu's name was called. There were two first-prize winners! Both Nobu and the Chinese pianist received gold medals. Van Cliburn embraced Nobu. There were tears in Nobu's eyes. They were ⁽³⁾tears of thanks for the help and support of his family, teachers, and friends. Nobu could not see them, but he said, "I can see them with the eyes of my heart."

(1) still¹ 図 2a, p. 1939.

2 [[譲歩] a (前言の内容は確かに事実だが) **それでも**, それにもかかわらず (《よりかたく》 nonetheless) (1) 動の前, または文頭で接続詞的に。(2) 対照の詳細は →but (読解のポイント) (2) ▶Robert did his best, **but** he **still** failed in the exams. ロバートはベストを尽くしたのに試験に落ちた/She turned down his marriage proposal twice. **Still**, he didn't give up. 彼女は彼のプロポーズを2度断ったが, それでも彼はあきらめなかった (しばしば前言では問題点や困難な状況が述べられ, still 以下でそれに対する対処や, 前言を話し手がそれほど深刻にとらえていないことが示される)/I very much like flying. **Still**, I don't like everything about flying. 空の旅は大好きですよ。もともと, 空の旅のすべてが好きだというわけではありませんが (前言の発話後に思いついて対照的な情報を追加する)。

- 譲歩を表す still の用法を理解させたい。2 には[[譲歩]と, 語義を概念的にまとめた注記があり, a には(前言の内容は確かに真実だが)という, 語義の補足的説明があるので確認させる。
- 辞書の第1用例は太字になっており, still の前に but が使われていることをチェックさせる。教科書本文も同様に but と still の組み合わせが使われていることに注意させる。このコロケーションを押さえておくことは, ここの文章読解の鍵となるのでしっかりと確認させておくことよ(教科書本文では「残念ながら受賞は逃したが, それでもなお幸せだった」という気持ちを示している)。

(2) amazing 図 1, p. 69.

a·maz·ing: /ə'meɪzɪŋ/ [-→amaze]

— 形 (more ~; most ~) (連語) absolutely, just, pretty, quite, really, so, truly; very は避けるべきとされるが(《くだけて》では時に用いられる)

1 (人・物・事が) (予想を裏切るほど) **すばらしい**, 驚くほどよい ▶an **amazing** experience すばらしい体験/The project [singer] is quite **amazing**. その計画[歌手]は本当にすごいよ。

- 教科書本文では amazing が形容詞の限定用法で something を修飾するため後置されていることに注意させる。
- 教科書本文では, 1位が2人いるという「びっくりするような[驚くほどよい]」出来事が起こったことから語義 1 へと導く。
- 他動詞 amaze (びっくりさせる)の派生語であることが, 見出し語の右にある[-→amaze]という語源欄の記述からわかるので, amaze を参照させる。さらに amaze の 図ロゴの下にある(→図詞 amazed, amazing)という参照指示を確認させ, 動詞 amaze の過去分詞から amazed (びっくりして), 現在分詞から amazing (びっくりするような)という2つの形容詞が派生していることを確認させる。-ed 形の形容詞と -ing 形の形容詞の意味の違いや, 文法構造の違いに触れるのもよい。この3語は紙の辞書なら見開きページ(pp. 68-69)に掲載されており, 一度に見比べることができる。こうした使い方は紙の辞書ならではの利点であり, そのよさを授業中の辞書引き活動で伝えたい。

a·maze: /ə'meɪz/ [語源は「ひどく困らせる」] (形) amazed, amazing, (名) amazement

— 動 (～s /-ɪz/; ～d /-ɪd/; amazing) (1) 通例進行形にしない (→図詞 amazing, amazed)

— ① (物・事・人が) «…で» (人) を**びっくりさせる**, 仰天させる «with» (1) surprise より強く, 信じがたいほど驚かせること ▶**What amazed me** most **was** her attitude. 私を最も驚かせたのは彼女の態度だった。

a·mazed* /ə'meɪzɪd/ [-→amaze]

— 形 1 [[be ~]] (人が) «…に/…して/…ということに» **びっくりして**, 仰天して «at, by, with/to do/(that) 節» (→surprised 類義) ▶Jack was just **amazed at** the results. ジャックはその結果にほんとにびっくりした/You'll be **amazed (at)** how well I can cook. 君は僕の料理の腕前に驚くだろう (1) wh 句の前の 図 は省略可)/I was **amazed [to hear Mary's story [(that) he was still alive]**. 私はメリーの話[彼がまだ生きているということ]に驚いた (1) (《くだけて》では that はしばしば省略)。

(3) tear¹ 図 1, p. 2018.

tear¹[※] /tɪər/ (U-ear は /ɪər/; →tear²)
 図 (④ ~s /-z/) ㊦ 1 [[通例~s]] 涙 (teardrop); 泣く
 こと ▶with [have] *tears* in one's eyes 目に涙をためて
 [ためている]/*tears of joy* [gratitude] うれし[感謝の]涙/
 Ann is *in tears*. アンは泣いている/Her *eyes filled with
 tears*. ≡ The *tears welled up* in her eyes. 彼女の目
 は涙であふれた/*burst* [break] *into tears* わっと泣き出す/
tears stream [run, roll] down A's cheeks A(人)の頬
 を涙がつたう/*fight back one's tears* 涙をこらえる/*wipe
 a tear* from one's eye 目からこぼれる涙をぬぐう/The
 song *brought tears to my eyes*. ≡ The song
moved me to tears. その歌を聴いて私は泣けてきた/They
 were *close to tears*. ≡ They were *on the verge of
 tears*. 彼らは今にも泣きそうだった/It'll (all) end in *tears*.
 最後には泣きを見るよ (㊦ 警告を表す)/without *tears* 涙を
 流すことなく; 容易に. 2 [[~s]] 悲哀, 悲嘆. 3 しづく; 涙のよ
 うなもの. ㊦ ㊦ ㊦ 〈目が〉涙であふれる.

◆ ~ *gàs* 催涙ガス.
tear²[※] /tɪər/ (U-ear は /ɪər/; →tear¹) [元来は「物を(力
 うくで)真っ二つに引きちぎる」]
 ㊦ (④ ~s /-z/; *tore* /tɔːr/; *torn* /tɔːrn/; ~ing
 /tɪərɪŋ/)
 ㊦ ㊦ 1 a 〈人・物が〉〈紙・布など〉を**引き裂く**, 破る; 引き裂い
 て「ある状態に」する «in, to, into»; 〈人が〉「服などに」〈穴を

- tear は同綴りで語源が違う語があるので、tear¹, tear² と右上の小さな数字で区別されていることを教えた。
- tear¹ の 1 にある[[通例~s]]という用法指示から、この意味では複数形になることが多いのに注意させる。
- 辞書の第 2 用例と教科書本文を比較させ、「…の涙」という場合には of を使うことを確認させる。
- さらに、会話や作文などの発信活動で使えるように、第 3 用例の「泣いている (be in tears)」や、第 4 用例の「涙があふれている (be filled with tears)」などのコロケーションをチェックさせると効果的。

Crown English Communication I, p. 52.

—4

Nobu wants to share the beauty and joy of music with others. He was ⁽¹⁾moved by the Great East Japan Earthquake and wrote an elegy for the victims. He first played it in Boulder, Colorado, on March 31, 2011. He plays it when people ask for an encore. He also played a piano that survived the ⁽²⁾tsunami. It was washed away and later found and repaired.

Nobu says, “I ⁽³⁾believe in the power of music. Everybody understands the language of music.

Lesson 4—Section 4

(1) move 動④ 4, p. 1305.

4 〈人〉の心を動かす, …を感動させる (しばしば受け身); [move A to B] A 〈人〉にB 〈笑い・怒りなど〉を起こさせる ▶ The audience was **deeply** [very] **moved** by her performance. 観客は彼女の芝居に深く感動した/The photographs **moved** us to tears. その写真は我々の涙を誘った.

5 〈かたく〉〈人〉をその気にさせる. 刺激する; [move A to do] A 〈人〉の心を動かして…する気にさせる ▶ if [when] the spirit **moves** you もしその気になったら/The disaster **moved** him to resign. その災害が彼に辞任を決断させた/I won't be **moved**. 考えを変えるつもりはない.

- 教科書本文では was moved by ... と by を伴った受動態になっていることを確かめさせる。さらに、受動態なので本来目的語であった名詞が主語の位置に表れており、それがここでは He (=辻井さん)であることに注意させる。
- 山形かっこ 〈 〉 には、一緒に用いられることの多い目的語に関する情報(選択制限)が示されていることに触れ、人を目的語に取る他動詞用法(語義 4, 5)を調べさせる。教科書本文が受け身であることから、(しばしば受け身)という解説のある語義 4 に導き、「彼が東日本大震災に(よって)心を動かされた」という意味になることを理解させる。

(2) tsunami 図, p. 2125.

tsu-na-mi 生活 /tsuná:mi/ [〈日本〉図(④)~s, ~) 1 ④ [地] 津波 (tidal wave, tsunami wave) (→earthquake) ▶ issue a tsunami warning [alert] 津波警報を発令する/That earthquake caused [triggered] a 20-foot tsunami [a tsunami (that measured) 20 feet high]. その地震で約6メートルの津波が起こった. 2 [the [a] ~ of A] A 〈人・物〉の急増; 圧倒的多数[膨大な量]のA ▶ a tsunami of imports 大量の外国製品(の流入).

- 見出し語右にある[〈日本〉]という語源欄の記述から、日本語の「津波」がそのまま英語になったことをチェックさせる。
- 語義に続き、丸かっこ() を使って同義語が示されているので, tidal wave, tsunami wave という表現もあることを確認させる。
- 教科書本文では the tsunami と定冠詞が付いていることから、同パラグラフの東日本大震災で起きた「特定の」津波を指していることにも注意させたい。

- この語のように、中学必修 (A ランク)、高校必修 (B ランク) 以下の下位ランク語 (C/D/E ランク) であっても、日常生活で頻出する語や、日本の事物のことを発信する際に必要とされる語については、生活ロゴを付して用例・解説を増強してある。実際に、会話長文やオーラルなど、大学入試にも頻出する語であるし、英語での発信の際にも役立つ語なので、生活ロゴの付いた語は意識的にマスターしておくように指導しておくのもよい。

(3) believe 動成句 believe in A, p. 185.

believe in A* (1) A 〈神・架空の人・奇跡など〉の存在を信じる, Aがいると思う ▶ believe in God [life after death, magic, ghosts] 神[死後の世界, 魔法, 幽霊]を信じる (I in は省略しない). (2) A 〈考え・方針・教義など〉を「…として」良い[正しい]と認める, 支持する, 是認する «as» (I Aは図(動名)) ▶ believe in democracy [the theory] 民主主義[その理論]を支持する/believe in being kind 親切であることをよしとする. (3) A 〈人(の人柄・能力・判断)〉を信頼する; [~ oneself (as B)] (B 〈役割〉として)自分に自信をもつ ▶ I believe in you, Ed. エド, 君を信頼しているよ (I 人格などをいう; 1 ④ 1).

- 単に「…を信じる」ではなく、in が付いて成句になると「A 〈神・架空の人・奇跡など〉の存在を信じる」となることに注意させる。
- 成句にも山形かっこ 〈 〉 を用いて選択制限が示されていることに触れ、「神・架空の人・奇跡」などの「存在が捉えにくいもの」がくることを理解させる。教科書本文では power (力) という語が使われているので、「私は音楽の力というものを[音楽には力があると]信じている」と言っていることを確認させる。

Crown English Communication I, p. 53.

(1)What I would like to do is to tell people never to give up. Perhaps my music can help them feel at least a little stronger.”

Nobu and some Fukushima junior high school students recorded “*Hana wa Saku.*” It is a charity song for the disaster victims. The students had seen so much suffering. The pianist was able to see their suffering with the eyes of his heart. They joined together in a song to express their sorrow, their courage, and their hope for the future.

(1) what ㊦ 2, pp. 2236–37.

【関係代名詞】(㊦(1)一般に文の中で強勢は受けない。(2)先行詞を含む; →that ㊦ 6 (文法) 2 …する物[事], …である物 (the thing(s) that) ▶ This is *what* he wrote in his teens. これは彼が10代の頃に書いたものだ/Is that *what* you mean to say? それが君の本当に言わんとしていることか/*What* I want [need] is some peace and quiet. 僕が今求めて[必要として]いるのは少々の平穏と静けさです (㊦ I want [need] some peace and quiet. の目的語を強調した構文)/He is not *what* he used to be. 今の彼はかつての彼ではない/*What* she is is the secretary. 現在の彼女(の職業)は秘書です/*What* they did was (to) share the money equally. 彼らがやったのはその金を平等に分けることであった (㊦(1)《くだけて》では to はしばしば省略される。(2) They shared the money equally. の述部 (shared 以下)を強調する言い方)/*What* I want to know is who did the job. ≒ … is, who did the job? 私が知りたいのは誰がその仕事をやったか (㊦ 述部の be 動詞の後にどのような形が続くかは what 節中の主要動詞による: *What* I wanted to say was (that) I agree with you. 私が言いたかったのは君に賛成だということだ).

- ・ 教科書本文が *what* で始まった名詞節 (What I would like to do is …) になっていることから関係代名詞を探させる。多くの語義がある多義語なので、サインポストの【関係代名詞】を探させると早く引くことができるのでチェックさせる。
- ・ 辞書の第 6 用例が教科書本文と同様に *what* から始まる名詞節が主語になり、その後 *be* 動詞 + *to do* の形を取っているので参照させる。用例訳を参考に、教科書のこの部分が「私がしたいことは、人々に決してあきらめないように伝えることだ」という意味になることを確認させる。
- ・ 辞書の第 6 用例で *to* 不定詞の *to* が丸かっこに入っており、さらに用例訳の後には㊦の注記があるので確認させる。辞書では省略可能な要素が丸かっこで示されていること、また使われる場所・場面(使用域)が二重丸かっこ()で示されていることに注意させて、くだけた場面では *to* は省略することがあることを確認させる。